

競技上の注意

第6回「水谷隼杯」争奪小学生卓球大会

審判長 藤田貴伸

現行の日本卓球協会ルールを適用して実施する。

競技者はスポーツマンシップに則り、ルールが遵守され、立派なマナーのもとに正々堂々と競技しなければならない。

1. 競技について

- ・試合は第1ステージの予選リーグは3ゲームマッチ2ゲーム先取にて行う。
第2ステージの決勝トーナメントは5ゲームマッチ3ゲーム先取にて行う。
- ・チェンジエンドは行う
- ・バンビ台は使用せず、高さ76cmの台で試合を行う。
- ・第1ステージの予選リーグ終了後、各リーグの選手は本部席に試合結果を報告して順位の確認すること。各リーグの1位選手は第2ステージの決勝トーナメントに出場する。1位の選手は、以降の予選リーグ表を進行から受取り、コートに届けること。予選リーグ敗退者及び決勝トーナメント1回戦敗退者は2日目の交流会に参加できる。希望者はアナウンス後に集合すること。
- ・第2ステージの決勝トーナメントの勝者は試合結果を本部席に報告し、以降の試合の対戦表を進行から受取り、コートに届けること。
- ・ゲーム間の休憩は1分間とし、6本ごとのタオルの使用後と5ゲーム目のチェンジエンドの際のタオルの使用後はすぐにプレーを開始すること。

2. タイムアウトについて

- ・タイムアウト制は適用しない。

3. 大会使用球について

- ・JTAA 公認のバタフライの 40 mmスリースターホワイトボールR40+を使用する。

4. ラケットおよびラバーについて

- ・ラケットには、J.T.T.A.A の刻印および商標、あるいは指定業者の略称と J.T.T.A.A の連続刻印がなければならない。JTAA が未公認の外国製ラケットを使用する場合はあらかじめ審判長に申し出て、許可を受けること。
- ・ラバーは JTAA または ITTF 公認のマーク付きのものでなければならない。
- ・ラバーはラケット本体の前面を覆い、小さかったり、はみだしたりしてはならない。
- ・ゲーム中にラケットが破損した場合は、スペアラケットかプレー領域内で手渡されたものと交換して、主審のチェックを受け、すぐにプレーを続けなければならない。
- ・ラバーの張り替えは、所定の場所で日本卓球協会が公認した接着剤を使用して行う。

5. 審判について

- ・第1ステージはリーグ戦の試合を行っていない選手が審判を行う。
- ・第2ステージの第1試合及び2日目の第1試合は、事前に主催者から指名選手が審判を行う。
以後は、敗者審判となるので敗者は、コートにある対戦表を取り出し対戦相手を確認し審判を行う。
- ・全種目準決勝からは静岡県卓球協会審判員が行う。

6. サービスについて

- ・ボールはフリーハンドの手のひらを平らに開き、静止状態にした後、ほぼ垂直に投げ上げなければならない。
- ・手のひらを離れてから、ボールは少なくとも 16cm以上上昇した後、落下する途中を打球しなければならない。
- ・サービスが開始されてから、ボールが打たれるまでの間、ボールは常にプレーイングサーフェスより高い位置で、かつサーバー側のエンドラインの後方にななければならない。またその間、サーバーの体の一部または着用している物で、ボールをレシーバーから隠してはならない。さらにボールが手のひらから離れたら、すぐにフリーハンドとフリーアームを、ボールとネットとの間の空間の外に出さなければならない。
- ・対戦者と審判員が確認できるフェアなサービスで試合を行うこと。

7. 服装について

- ・競技服装(シャツ、ショーツ、スカート)は JTТА の公認マークの付いたものを着用する。
- ・「ゼッケン」は主催者が用意したゼッケンを着用する。

8. 進行について

- ・試合はタイムテーブルに則って行う。
- ・各選手は自分の試合時間とコートを確認し、遅れることのないように充分注意してください。
- ・タイムテーブルより進行が早い場合は、10 分予定前に出来るものとする。
- ・進行状況により、コートを変更することがありますので、場内アナウンスに注意してください。

9. 促進ルールについて

- ・ゲーム開始後 10 分を経過した場合、または両方の競技者から要請があった場合は促進ルールが適用される。
- ・促進ルールが適用された場合、そのマッチの残りのゲームは促進ルールで行われる。
- ・双方のポイントスコアの合計が少なくとも 18 ポイントに達した場合には促進ルールは適用されない。

10. バッドマナーについて

- ・競技者(帯同者も含む)が相手に対して不当な影響を与え、ゲームの評判を落とすような行為をしたと主審が判断した場合、警告等が課せられる。場合によっては審判長判断で失格となる。
- ・ポイントが決定した後は、速やかに次のサービス体勢、あるいはレシーブ体勢をとり、競技のスピードアップをはかること。スロープレーはバッドマナーと判断する。

11. 抗議について

- ・個人戦なので、抗議はその場面に参加していた選手のみが行うことができる。
- ・アドバイザー等その他の方は抗議できません。

12. その他

- ・カメラ・ビデオ撮影は、報道と許可された人以外はフロア内では禁止する。
- ・フロア内での濡れ雑巾の使用は一切禁止とする。
- ・競技場内への飲み物の持込は、ふたのできるボトル類に限る。